

252人の「Merry」

米同時テロから一年が経過した昨年九月、ニューヨークで「MERRY(英語で「陽気な」「愉快的」の意)」という言葉をもとに、街角の市民たちの笑顔をとらえた写真を展示するイベントが十四日から、港区六本木の「六本木ヒルズ インフォメーションセンター」で開かれる。撮影したアートディレクターの水谷孝次さん(51)は、「テロや戦争など、様々なことが起きている現代で、人間にとって幸せとは何かを考へるきっかけになれば」と話している。

「MERRY IN NEW YORK」。昨年九月七日から十六日まで、ブルックリン、ニューヨーク大学、ソーホー地区などで、「あなたにとって『MERRY』とは何ですか?」と問いかけながら、写真を撮り歩いた。約四百人の写真を撮り、このうちの二百五十二人を、それぞれの回答を添えて展示する。写真をまとめた新聞も無料配布する。

水谷さんは、これまでに数々の企業広告のポスター制作などをしてきたが、一九九五年の阪神大震災復興支援活動に携わったのを機

NY市民の笑顔とらえた写真展 あすから 六本木で



会場などで配られる新聞を手に「多くの人に参加して欲しい」と話す水谷さん

に、「MERRY」をテーマに写真を撮り始めた。「バブル経済の真つただ中では、お金に糸目をつけない商業広告ポスター作り

に、「MERRY」をテーマに写真を撮り始めた。「バブル経済の真つただ中では、お金に糸目をつけない商業広告ポスター作り

などに追われてきた。もう一度、人間の原点に立ち返って仕事をしたいと思っただ」とその理由を語る。二〇〇一年には、神戸のポートピアで撮影した笑顔の市民の写真を展示するイベントを開催。今回は、その「ニューヨーク版」となる。開催期間中は、ニューヨークでも、笑顔

などに追われてきた。もう一度、人間の原点に立ち返って仕事をしたいと思っただ」とその理由を語る。二〇〇一年には、神戸のポートピアで撮影した笑顔の市民の写真を展示するイベントを開催。今回は、その「ニューヨーク版」となる。開催期間中は、ニューヨークでも、笑顔